

横浜自然観察の森でのネコ遭遇記録			
大浦晴壽(横浜自然観察の森 友の会 カワセミファンクラブ)			
調査場所 横浜自然観察の森 園内全域			
調査日 2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日			
調査開始	2011 年	次年度 継続	終了予定 一年
<p>調査目的</p> <p>横浜自然観察の森域内でしばしば目にするネコは、この森の外来生物とも考えられ、この森に生息、繁殖する野鳥などの野生生物に捕食圧を及ぼしている可能性が考えられる。従って、これらの影響の程度を考える際の基礎資料として使えるよう、この森でネコを目撃する度に記録する事により、目撃の頻度情報を得る事、更にはネコの個体識別を行う事を目的として調査した。</p>			
<p>調査方法</p> <p>本調査は別途報告の鳥類相調査で域内を歩いた際の副次調査的に実施した。ネコと遭遇する度に日時、場所、そのネコの特徴(可能な限り写真撮影を実施)、その時の行動などを記録した。</p>			
<p>調査結果</p> <p>調査は 2011 年度下期から開始し、半期毎に自然観察センターに報告しているが、今回の報告はネコの個体識別リストを改訂した 2013 年度下期の報告書(表 1)を以下に添付する事で行いたい。</p> <p>2013 年度下期(2013 年 9 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)期間中に 137 日森に入り、園内では 20 回、延べ 22 匹の猫と遭遇した(表 2)。また上郷森の家周辺でも延べ 96 匹のネコを目撃した(表 3)。</p> <p>更には森の域内で 2013 年度内に目にしたネコの内 8 匹の個体識別を行った。これら目撃した猫で、首輪をしているなど、飼い猫である事が外見上明確に分かる猫は一匹もいなかった事を付記しておきます。</p>			

表1 横浜自然観察の森を巡回するノネコ識別リスト

作成 平成25年(2013年)4月1日
改訂 平成26年(2014年)4月7日 大浦晴壽

個体番号	個体写真及び特徴	
No.2	 <p data-bbox="753 1967 837 2525">2013年12月29日10時16分 ノギクの広場</p>	 <p data-bbox="753 1389 837 1947">2014年3月1日8時13分 ピクニック広場</p>
No.3	 <p data-bbox="1222 1967 1314 2525">2013年5月6日6時52分 上のトイレ横</p>	 <p data-bbox="1222 1389 1314 1947">2014年1月6日8時5分 タンポポの道6番下</p>
No.4	 <p data-bbox="1698 1967 1818 2525">2013年4月16日7時10分 クヌギの林前広場</p>	 <p data-bbox="1698 1389 1818 1947">2014年3月3日10時54分 ウガイスの草地階段上</p>
	 <p data-bbox="2202 1967 2100 2525">2014年3月11日7時35分 ピクニック広場</p>	 <p data-bbox="2202 1389 2100 1947">2014年3月9日(クロジ街道:佐々木祥仁氏撮影)、 3月28日(上の桜並木)の画像あり。最近も活発に活動しているノネコの中の一頭。</p>
	 <p data-bbox="2255 1967 2100 2525">2014年1月10日10時43分 タンポポの道9番</p>	 <p data-bbox="2255 1389 2100 1947">2014年2月17日10時20分 タンポポの道10番</p>
	 <p data-bbox="2307 1967 2100 2525">2014年10月30日(ヘイケボタルの湿地)、11月15日(コナラの道7番)の画像あり。最も活発なネコの一頭。</p>	 <p data-bbox="2307 1389 2100 1947">2014年3月15日8時0分 ピクニック広場</p>

個体写真及び特徴

個体番号	個体写真及び特徴	
No.5	 <p>2014年1月10日10時19分 長倉トイレ前 【特徴】体上面は薄茶色。僅かに縞模様。額中央から体下面、首周りは白色。前脚も白色。</p>	 <p>2013年8月9日11時9分 ケンボタルの谷</p>  <p>2014年3月1日8時12分 ピクニック広場</p>
No.7	 <p>2013年4月16日11時42分 ウグイスの道11番 【特徴】黒、茶、白の三毛。尾は長い。他に2013年7月30日(Y字路)の画像あり。</p>	 <p>2013年4月22日9時11分 長倉トイレ前</p>
No.10	 <p>2013年12月25日9時 ノギクの広場 【特徴】全身黒色。首や尾の毛は長い。人慣れしている。</p>	

個体番号	個体写真及び特徴
No.11	 <p>2013年11月17日9時56分 後ろのネコはNo.7と判定 ノギクの広場 (写真提供: 佐々木祥仁氏) 【特徴】No.11(手前のネコ)はほぼ白色で体上面に薄茶の斑あり。薄茶の部分は尾の近くに多い。</p>
No.12	 <p>2014年3月24日11時55分 アキアカネの丘 【特徴】体上面は灰色。濃淡で縞模様が見える。鼻先から下の体前面は白色。首周りの白色部はNo.4より狭い。脚下部は4本共に白色。</p>

表2 平成25年度下期ネコ遭遇記録

平成26年4月7日 大浦晴壽

ネコNo.は表1「横浜自然観察の森を巡回するノネコ識別リスト」に定義したネコNo.

日付	遭遇時刻	遭遇場所	ネコNo.or特徴	行動or進行方向
平成25年10月10日	10:56	関谷奥見晴台	茶白ネコ	トカゲ捕獲
10月30日	7:49	ヘイケボタルの湿地	No.2	山側の下藪へ入る
11月15日	8:43	コナラの道7番	No.2	コジュケイを追って藪へ入る
11月17日	9:56	ノギクの広場	No.7とNo.11	階段で休息(佐々木祥仁氏観察)
12月18日	7:20	アキアカネの丘	No.2	走っていた
12月25日	9:00~	ノギクの広場	No.10	人にすり寄る。脱糞した
12月29日	10:16	ノギクの広場	No.2	階段の上から谷側へ降りた
平成26年1月6日	8:05	タンポポの道6番下	No.3	休息→階段を上へ上がった
1月10日	10:19	長倉トイレ前	No.5	歩道を横断した
	10:43	タンポポの道9番	No.3	藪の中に入って動かず
2月17日	10:20	タンポポの道10番	No.3	歩道から環状4号側の崖へ降りた
3月1日	8:09	中駐車場前歩道	No.2	藪の中へ入った
	8:12	ピクニック広場	No.2とNo.7	広場の歩道から藪の中へ入った
3月3日	10:54	ウグイスの草地階段上	No.4	休息→草地奥へ入った
3月9日	8:29	クロジ街道	No.4	藪へ入った(佐々木祥仁氏観察)
3月11日	7:35	ピクニック広場	No.4	歩道からホップ場横の藪へ入った
3月15日	8:00	ピクニック広場	No.4	草地をパトロールしてた
3月24日	11:55	アキアカネの丘	No.12	草地から様子を窺い藪へ入る
3月27日	8:09	コナラの道終点	No.3	後ろの階段を環状4号側へ下る
3月28日	10:20	上の桜並木	No.4	Y字路方向へ歩き去る

表3

平成25年度下期上郷森の家周辺でのネコ目撃記録

平成26年4月7日 大浦晴壽

日付	目撃時刻	目撃数(匹)	備考
平成25年10月5日	10:24	1	森の家前:休息
10月11日	11:45	1	森の家前:休息
10月12日	9:41	2	森の家前:休息
10月13日	11:17	2	森の家前:休息
10月17日	11:03	1	森の家前:休息
10月18日	12:08	2	森の家前:休息
10月24日	11:05	1	森の家前:休息
10月28日	11:35	2	森の家前:休息
10月30日	7:29	1	料金所前
	11:10	2	森の家前:休息
10月31日	11:32	1	森の家前車道:横断
	11:32	1	森の家前:休息
11月8日	12:49	2	森の家前:休息
11月9日	9:48	2	森の家前:休息
11月11日	7:35	1	森の家前車道:歩いていた
	11:27	2	森の家前:休息
11月14日	11:05	1	森の家前:休息
11月16日	10:56	1	森の家前:休息
11月20日	11:27	1	森の家前:休息
11月21日	11:16	1	森の家前:休息
11月25日	7:16	1	森の家前車道:横断
11月29日	11:40	1	森の家前:休息
11月30日	7:45	1	森の家前車道:横断
12月3日	10:49	1	森の家前:休息
12月4日	10:53	1	森の家前:休息
12月5日	11:05	1	森の家前:休息
12月7日	11:14	2	森の家前:休息
12月15日	11:25	1	森の家前:休息
12月16日	11:34	1	森の家前:休息
12月17日	13:53	1	森の家前:休息
12月18日	11:01	1	森の家前:休息
12月21日	12:52	2	森の家前:休息
12月22日	11:12	1	森の家前:休息
12月28日	11:03	2	森の家前:休息
12月29日	8:12	1	森の家前車道:道を下へ下って行った
12月30日	11:20	2	森の家前:休息
12月31日	10:45	1	森の家前:休息
平成26年1月2日	11:59	1	森の家前:休息
1月3日	11:15	1	森の家前:休息
1月7日	11:13	1	森の家前:休息
1月10日	8:00	1	森の家前車道上
	12:17	1	森の家前:休息
1月16日	11:19	2	森の家前車道上
		1	森の家前:休息
1月26日	8:01	1	森の家前車道脇:休息
	13:44	1	森の家前:休息
1月27日	11:27	1	森の家前:休息
2月3日	10:58	2	森の家前:休息
2月5日	11:04	1	森の家前:休息
2月6日	11:09	2	森の家前:休息
2月19日	12:12	2	森の家前:休息

2月22日	11:35	2	森の家前:休息
2月24日	10:25	3	森の家前:休息
3月4日	11:30	3	森の家前:休息
3月6日	10:45	1	森の家前:休息
3月9日	11:10	1	森の家前:休息
3月10日	11:22	2	森の家前:休息
3月11日	11:43	3	森の家前:休息
3月14日	11:43	1	森の家前:休息
3月16日	14:50	2	森の家前:休息
3月18日	7:55	1	森の家前:休息
	10:35	2	森の家前:休息
3月19日	12:02	2	森の家前:休息
3月21日	7:24	2	森の家前車道上
	12:28	1	森の家前:休息
3月23日	11:34	1	森の家前:休息
3月28日	12:08	1	森の家前:休息
3月31日	10:05	1	森の家前:玄関前を横切る
	合計匹数	96	

森の家周辺とは森の家玄関周囲及び駐車場料金所から森の入口車止めまでの道路上

環境写真記録調査(2013 年度)			
古南幸弘(公益財団法人 日本野鳥の会)			
調査場所 園内全域各所(52 地点)			
調査日 2013 年 10 月 14 日・31 日、2014 年 3 月 29 日・31 日			
調査開始	1985 年	次年度 継続	終了予定 一年

調査目的

開園前後に写真を撮影した場所を定期的に撮影することによって、環境の変化を記録する。

調査方法

従来、環境の変化を景観レベルから記録するために、園内に 18ヶ所の定点を選定し、撮影を行なっている(図 2)。しかしこの定点は開園時に広い範囲の景観を記録する目的で撮影した定点のうち、現在でも比較可能な地点のみとなっているので、主な草地や湿地、トレイルが網羅されていない。

そこで、これを補完するために、主な草地や湿地、トレイルの代表的な景観を撮影できる地点を検討し、撮影を行なった。

撮影は、落葉樹の葉が茂っている 10 月と、落葉している 3 月に行った。

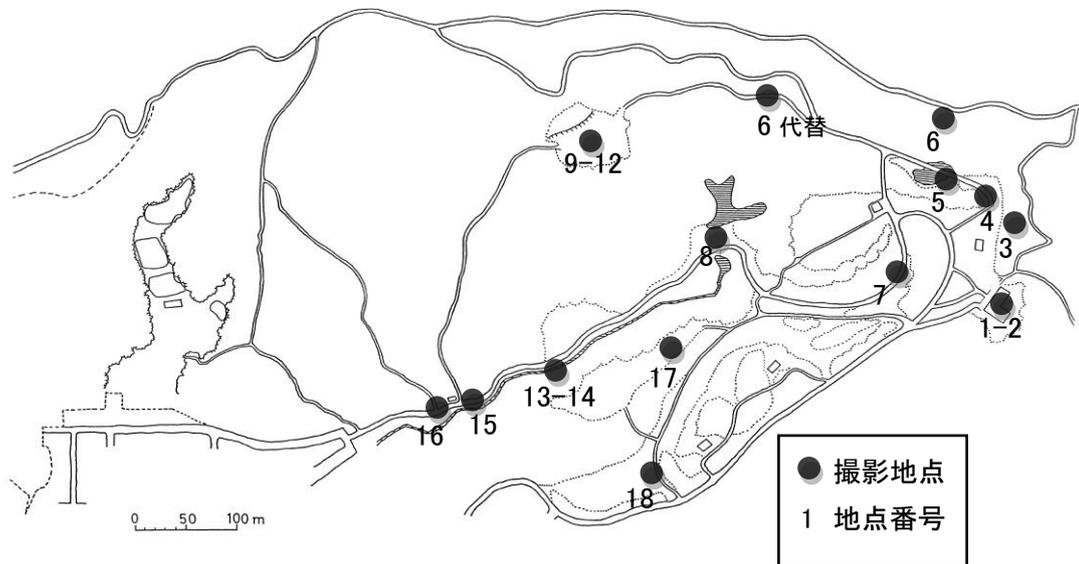


図1. 従来からの定点撮影の地点(1985-1988 年度、2006 年度、2012 年度に撮影実施)

調査結果

撮影地点は図2のように52地点を選定した。

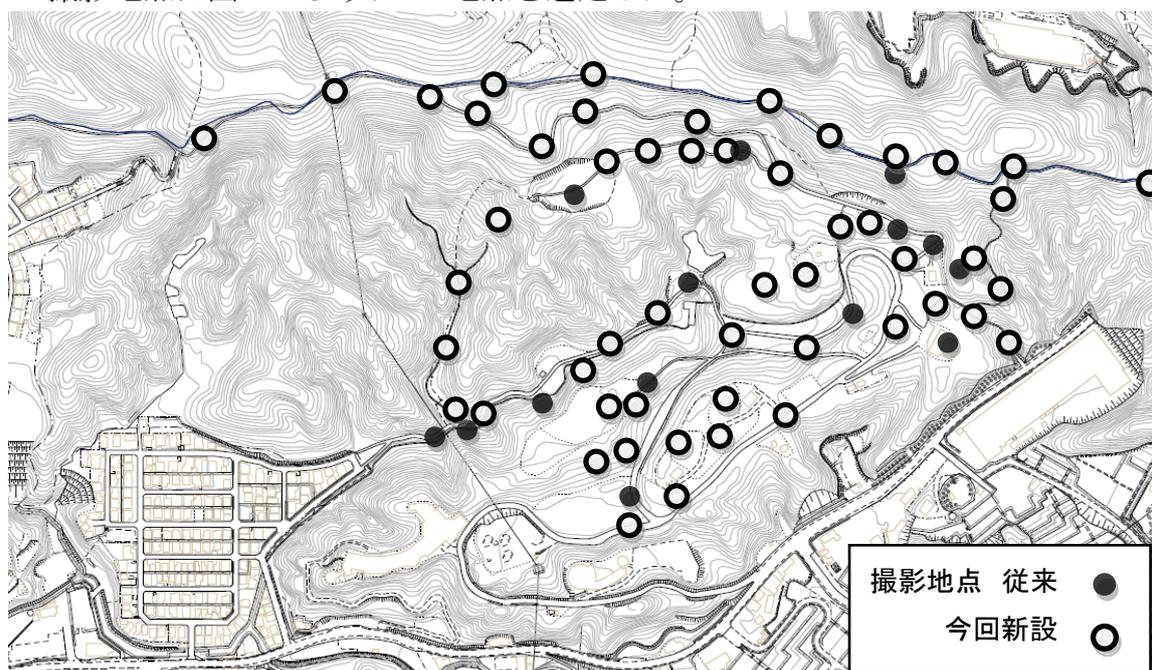


図2. 2013年度定点撮影位置

考察

同じ地点から景観を撮影し、緑被度等を比較することは可能なため、簡易な環境変化の記録方法として、定点における写真記録を数年おきに行うこととしている（横浜自然観察の森調査報告12）。図1に示す18の定点は、開園時の環境との比較可能な景観を撮影できるポイントとして選んでいるため、森林や草地、トレイルで本調査の撮影の対象に含まれていない環境施設があった。

これを補い代表的な景観変化を記録するために選んだ定点が上記52地点である。これらは基本的にトレイル上から撮影できる場所を選定している。

なお各定点からの画像は省略する。これらは、自然観察センターにデータとして保管されている。

希少植物調査 ～シラン原生地の選択的除草の効果～(2013 年度)	
古南幸弘・赤星稔・奥野展裕(公益財団法人 日本野鳥の会)	
調査場所 ウグイスの道 5～6 の間の階段をはさんだ両側	
調査日 (過年度も含む) : 2003 年 5 月 8 日・9 日、2004 年 5 月 13 日・14 日、 2005 年 5 月 12 日・13 日、2006 年 5 月 10 日・11 日、 2007 年 5 月 16 日・17 日、2008 年 5 月 16 日・17 日、 2009 年 5 月 22 日、2010 年 6 月 3 日、2011 年 5 月 31 日、 2012 年 6 月 10 日・21 日・30 日・7 月 3 日 2013 年 6 月 16 日・29 日	
調査開始	1999 年 次年度 継続 終了予定 一年
<p>調査目的</p> <p>シランは、日あたりのよい湿った草地や斜面に生えるラン科の多年性草本である。環境省第 4 次レッドリスト (2012) では準絶滅危惧種(NT)、神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 (高桑他編) では絶滅危惧 IB 類、横浜の植物 (横浜植物会 2003) のレッドカテゴリでは絶滅寸前種(En-A)に位置づけられており、県内では数箇所しか原生地が確認されていない。横浜自然観察の森にある原生地では、夏もしくは冬に除草を行い、管理の効果を調べてきた (調査報告 2000、2001、2002、2003、2004、2005、2006、2007、2008、2009、2010、2011、2012)。2003 年度から 2008 年度までの 6 年間は、毎年 5 月に横浜雙葉中学校 2 年生の生徒が、総合学習の一環で、シラン以外の植物(主にススキなどのイネ科の高茎草本)をハサミで切って管理していた。2009 年度からは、レンジャーにより管理作業を行っている。この作業の際には、シランの株の踏みつけが必然的に起こってしまう。</p> <p>そこで、このような管理作業や、踏みつけ等の効果、影響をモニタリングする。</p> <p>調査方法</p> <p>50cm×50cm の針金で作成したコドラートを、シラン原生地の任意の場所に置き、その中の、花茎のついているシランの株と、花茎のついていない株を数えた。調査は、レンジャーが行った。各年の調査コドラート (方形区) 数は、2003 年の道の北側を除けば、20 ヶ所以上で調査を行った (表 1)。</p>	

表1. 各年の調査コドラート数

年	道の南側	道の北側
2003	22	12
2004	29	34
2005	24	24
2006	27	32
2007	35	34
2008	20	34
2009	35	30
2010	30	25
2011	20	20
2012	20	22
2013	26	26

調査結果

1) 株数の年変化

道の北側では、シランの株数は2004年から2006年の急激な増減以降、2011年まで株数は緩やかに増加する傾向を示していた。2013年は前年に引き続き、微減の傾向が続いた。

道の南側では2008年に減少傾向を示したものの、2009年から2011年にかけて、大幅な増加傾向を示していた。2013年は前年に比べて増加していた。

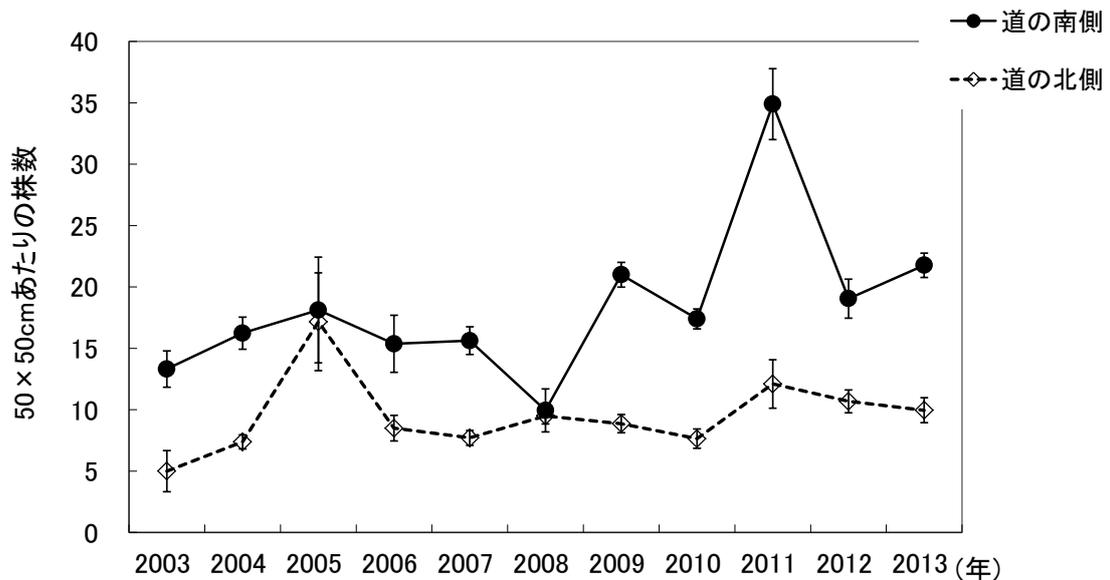


図1. シランの株数の年変化 (グラフの縦棒は標準誤差)

2) 花茎のある株の割合

シランは1株につき1本の花茎がつくが、栄養状態等により花茎がつかない株も存在する。そこで、50cm×50cmのコドラートあたりの株数と花茎のある株数を数え、その割合を求めた(図2)。

花茎のある株数の割合は、中学校が管理を始めた2003年から2011年まで、南側が北側を上回る割合を示していたが、2012年に初めて逆転した。

北側では、2005年に大きく減少し、2010年までに2007年を境とした増減を示し、2011年に増加に転じ2012年はさらに直線的に増加したが、2013年には前年より減少に転じた。南側では、2006年・2007年と2009年・2010年に大きく減増を示した。2013年は、前年に比べわずかに増加した。

このため、2013年には、再び南側の割合が北側の割合をやや上回る結果となった。

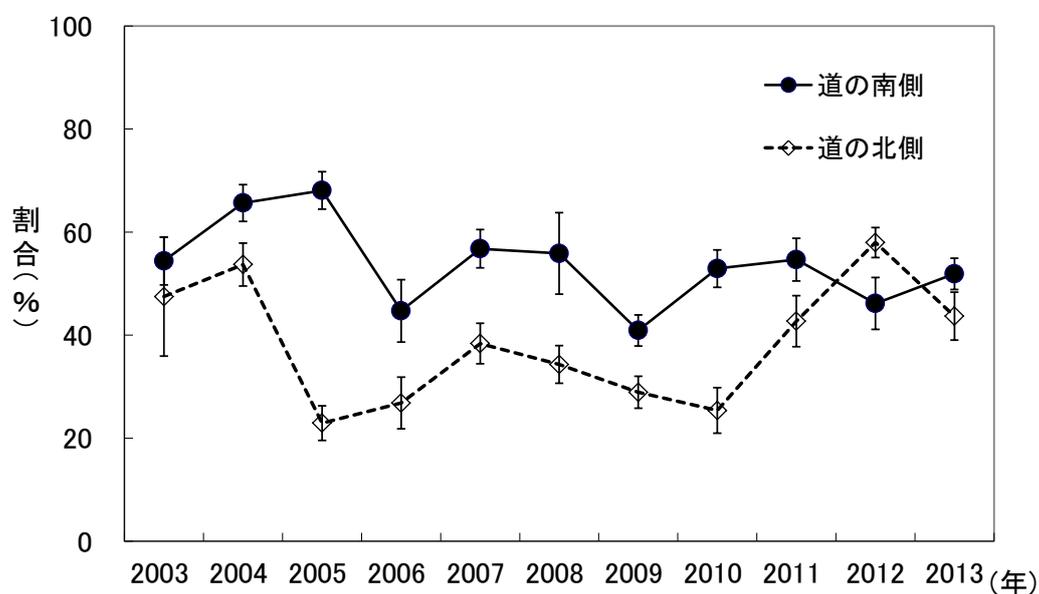


図2. シランの花茎のある株の割合の年変化 (グラフの縦棒は標準誤差)

3) 株数の推定

それぞれの生育地の面積を目測し、コドラートの面積0.25 m²あたりの平均株数を乗じて生育株数を推定した。

南側は0.25 m²あたりの平均株数は21.8で、生育面積は計測の結果、25.3 m²と見積もられたので、約2,203株と推定された。また北側は0.25 m²あたり平均株数は10.0、生育面積24.7 m²と計測されたので、約984株と推定された。これらから、シラン原生地には3,000株以上が生育しているものと推定された。

考察

南側は前年に比べ、株数、花茎のある株の割合ともにわずかに増加した。このため、現在の管理状況は良好であると思われた。ただし、以前に比べて生育面積は狭まっていると思われたため、調査時に選択的除草を行なった以外に、8月に周辺部の低木の伐採、剪定を実施した。

これに対し、北側では株数は安定した傾向が見られていたが、2013年には株数、花茎を持つ株の割合は前年よりわずかに減少した。これは周囲の低木等の枝が伸びて陰になる部分が多くなったためと考えられた。このため、調査時に選択的除草を行なった以外に従来よりも広い範囲で剪定を行ない、8月にも剪定、伐採を行なった。

6月の調査・選択的除草の際に、表2に示すような草本の種が見つかった。このうち、園内で比較的、他には生育していないと思われる種は、シランと共に残した。これらがシランと共存できるかどうか、今後検討していく必要がある。

表2. シラン原生地で選択的除草の際に見つかったおもな草本の種

道の南側	道の北側
イヌドクサ	イヌドクサ
ホトギス	オニドコロ
ヒメドコロ	ケチヂミザサ
チガヤ	オギ
カワラナデシコ	コマツナギ
ワレモコウ	ヨモギ
コマツナギ	ヒヨドリバナ
ヘクソカズラ	
スイカズラ	

謝辞

調査を補助してくださった神奈川県立中央農業高等学校草花部所属2年生(当時)の小代彩可さんにお礼申し上げます。

桜林の植生調査(2013 年度)	
古南幸弘・赤星稔 (公益財団法人 日本野鳥の会) 大越哲朗・篠原由紀子・上原明子・関根和彦・藤原功・橋詰斉・ 山田靖彦・大浦晴壽・村松古明 (横浜自然観察の森友の会) 中村明世・井上雅人 (横浜市環境創造局みどりアップ推進課)	
調査場所 桜林	
調査日 2013年11月16日、12月18日、2014年1月16日	
調査開始	2013年 次年度 継続 終了予定 一年
<p>調査目的 雑木林管理ゾーン内の管理区の一つである「桜林」において、今後の環境管理の実施計画を検討する材料として、現状の植生を記録する。なお本調査は、「保全管理計画に関する業務」の一環として行った。</p> <p>調査方法 桜林全域を対象として、高木層と亜高木層の樹木の位置を地図に落とし、樹種を記録した。</p> <p>調査結果 桜林全域で、高木層・亜高木層合わせて 24 種 130 本の樹木を記録した(表)。またこの他、西南側の区画では低木層の記録をおこない、15 種 51 本を記録した。これらの立木図を作成した。 高木層・亜高木層は、過去に移植・植栽されたと思われる樹木が多く、これには、種として元々園内に自生していなかったと思われる外来種(国内外来種)や園芸種、外部(地域外)からの移植が 10 種含まれていた。 低木層については一部しか記録していないため、次年度に引き続き調査を行なう。</p>	

表. 桜林で記録された高木層・亜高木層の樹種と本数

樹種	本数	備考
ヤマモモ	7	国内外来種
アカシデ	1	外部からの移植
イヌシデ	4	外部からの移植含む
スダジイ	12	外部からの移植含む
シラカシ	21	外部からの移植
クヌギ	2	
ケヤキ	3	外部からの移植含む
エノキ	6	
ムクノキ	2	
ヤマグワ	16	
コブシ	7	外部からの移植
クスノキ	2	外来種
タブノキ	2	外部からの移植含む
オオシマザクラ	2	外部からの移植含む
ヤマザクラ	5	外部からの移植含む
カスミザクラ	3	外部からの移植
サトザクラ	1	園芸種
ソメイヨシノ	24	園芸種
サクラ類	4	園芸種・外来種を含む
ネムノキ	1	
アカメガシワ	1	
ミズキ	2	
トウネズミモチ	1	外来種
ガマズミ	1	(亜高木層)
総合計	130	

(配列は「神奈川県植物誌 2001」による)

引用した本・文献

神奈川県植物誌調査会編,2001. 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 1580pp. 小田原市.